

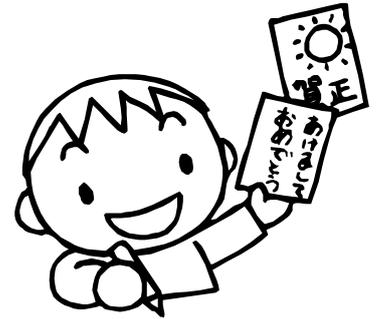


2023.1.17 瀬戸ひなご幼稚園園長 神戸洋美

年賀状のこれから…

大変遅くなりましたが、明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。幼稚園からは全てのお子さまに年賀状を出しましたが、この年賀状もここ最近随分様変わりしてきました。

私は公職者としての立場があり、基本的に年賀状が出せません。その代わり、送って下さった皆様にお礼の年賀状を出します。それも手書きでないといけないという決まりがあるので、毎年元旦からの仕事はじめがそれでした。ところが、その年賀状も今年は半分ほどになりました。ある程度予想はしていましたが、その変化に驚いています。



これまで年賀状はなかなか会えない友だちやお世話になっている方に、1年に一度のご挨拶という形で送ってきました。昔は『プリントごっこ』を使って、オリジナルの年賀状を自宅で作り、毎年工夫して楽しみながら作っていました。また印刷しただけのものは相手の方に失礼と、必ず手書きで一言添える、あて名は必ず自筆で書くということにこだわってきた自分です。

自分の年齢が増えていくと共に身内にご不幸があって出せない、と方も増えました。それに加えて、企業関係の方も個人の方も「年賀状は今年限りでやめます。来年からは出しません。」という方も多く、来年はさらに減るようです。特に企業の方の理由は「SDGs を考えて」という理由でした。確かに持続可能な社会を継続するために、CO2 削減を考えて印刷する紙やインクを減らすことは大事ですが、削減すべきものや見直すべきものはもっと別にあるのでは、と私は思います。

今は携帯電話が発達し、メールやラインであっという間に伝えることができるようになり、わざわざ手紙を書かなくても事足りる、という時代になりました。しかし昔から続いてきた1年に一度の恒例行事には、相手の無事を気遣うという気配りがあったと思います。ハガキや手紙で思いを伝えるという習慣がどんどん無くなっていくことに一抹のさみしさを感じるのは、私だけでしょうか。

3学期はあっという間

1年の最後の締めくくりの3学期が始まりました。昔から「1月は行く、2月は逃げる、3月は去る」という語呂合わせの言い伝えがあります。1月はお正月気分である間にあっという間に過ぎていきますし、2月は28日間しかありません。3月は年度末の忙しさに追われ去っていくという具合です。

先日、年少組のあるクラスに入って成長した姿に驚きました。バスが到着しクラスに入って支度をするのですが、全部自分でできばきと出来るのです。上靴を履き、スモックや帽子を棚に入れ、出席ノートの処理はもちろんのこと、冬は制服の上にコートも来ているので、それをハンガーに通し前のファスナーまで閉めて、全部自分でできる姿に頼もしさを感じました。4月に泣いて登園してきた子、じっとしていなくてすぐ運動場に逃げた子等々、あの頃のあわただしさが信じられません。



年齢と共に1年が過ぎていくのがどんどん速く感じるのは、ワクワク感が無くなるからだそうです。子どもの頃は、毎日楽しいことがいっぱいあって、時間がちっとも過ぎていかないとか。年齢が増えると活動範囲も限られ、段々胸がときめくような楽しみが減ってきて、あっという間に1年が過ぎていくように感じるのだそうです。

3学期を終えると、それぞれが年中や年長に上がり、特に年長さんは小学生となりステージが変わります。その学年にふさわしい自覚も出てくることでしょう。子どもたちの成長が益々楽しみです。

今年もよい年でありますように

我が家の初詣は、地元の氏神様と瀬戸の曾野稻荷に出かけます。お参りした後、おみくじを引き1年を占います。「出た！大吉！」『わき目ふらず一心に、自分の仕事大事とはげみなさい』とありました。しっかり頑張ります！

